

平成26年度

事業報告

平成26年4月1日から

平成27年3月31日まで

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、本年度の事業を実施した。

本年は、WCRP 日本委員会がさらに平和と調和への役割を果たしていくために、“より開かれ、より行動する WCRP 日本委員会”を目指して、公益財団法人に移行して3年目を迎えた。

「共にすべてのいのちを守るための祈りと行動」の総合テーマのもと、①宗教者としての東日本大震災復興支援、②原子力エネルギーと現代文明について宗教者として問い続けること、③東アジアや中東地域の宗教者との対話交流の3つを重点的に取り組むサブテーマに据えて事業を推進した。

本年8月には、第8回 ACRP（アジア宗教者平和会議）大会が、韓国・仁川において「アジアの多様性における一致と調和」を総合テーマに開催され、26 か国から約450名が参加した。日本からも100名を超える宗教代表者、プレス関係者等が出席し、テーマに関する日本からの発信を行い、全体会議・分科会での議長や発題者を担うなど、積極的に参画した。

平成25年（2013年）に開催された第9回世界宗教者平和会議（WCRP）世界大会（テーマ：他者と共に生きる喜び）及び第8回 ACRP 大会の宣言文を踏まえて、来年度以降の日本委員会の活動を展開していくこととなる。

さらに、4つの特別事業部門（タスクフォース）、①東日本大震災復興事業、②核兵器廃絶・軍縮、③国連ミレニアム開発目標（MDGs）、④平和教育による事業をはじめ、「平和のための宗教者研究集会」や「平和大学講座」をはじめとする学習会を通して、平和に関する諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

I. 事業部門

A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

事業の趣旨（目的）

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

(1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンズー等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。

平成26年度の事業は以下の通り。

①第8回ACRP（アジア宗教者平和会議）大会

第8回ACRP大会が、8月25日から28日まで韓国・仁川市のソンド・コンベンシアにおいて開催された。大会テーマは、『アジアの多様性における一致と調和』。26カ国から約450名の宗教代表者が参加した。日本からはWCRP日本委員会役員、会員、関係者ら114名が参加した。事前に総合テーマや分科会のテーマに関する日本委員会としての発信内容を作成し、また、全体会議・分科会において積極的に議論に参画した。

日本の代表者の発題・役務等は以下の通り。

- ・開会式 諸宗教の祈り：中野重哉 WCRP 日本委員会理事・愛知学院理事長
基調発題：庭野日鑛 WCRP 日本委員会会長・立正佼成会会長
- ・全体会議 II 議長：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問
- ・全体会議 III 各国委員会報告：畠山友利 WCRP 日本委員会事務局長
- ・分科会 3 「開発と環境」
議長：國富敬二 WCRP 日本委員会理事・立正佼成会理事
基調発題：藺田稔 WCRP 日本委員会理事・秩父神社宮司
- ・ワークショップセッション「朝鮮半島における和解と一致」
パネリスト：畠山友利 WCRP 日本委員会事務局長

- ・宣言文起草委員会：眞田芳憲 WCRP 日本委員会理事・平和研究所所長
- ・人事委員会議長：國富敬二 WCRP 日本委員会理事・立正佼成会理事

期間中、全体会議（開会式、全体会議 I-VI、閉会式）、「平和教育と和解」「人権と幸福」「開発と環境」をテーマとする3つの分科会、ワークショップセッションがもたれ、宗教者や学者、専門家らが議論を交わした。

最終日には、平和教育の重要性や環境保全対策など、11の提言を盛り込んだ仁川宣言を全会一致で採択した。また全体会議において、ACRP 新役員の改選が行われた。日本の役員は以下の通り。

共同会長：庭野日鑛 WCRP 日本委員会会長・立正佼成会会長

管理委員：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問*

植松誠 WCRP 日本委員会理事・日本聖公会首座主教*

川端健之 WCRP 日本委員会理事・立正佼成会理事長*

黒住宗道 WCRP 日本委員会理事・黒住教副教主*

藺田稔 WCRP 日本委員会理事・秩父神社宮司

WCRP 日本委員会事務局長（役務就任）*

*は執行委員も兼任

事務総長：畠山友利 WCRP 日本委員会事務局長

なお、12年間にわたってACRP 事務総長を務めたキム・スンゴン博士に替わり、畠山友利事務局長がACRP 新事務総長に選任されたことを受け、平成27年1月29日に事務局長の選任を行い國富敬二理事が事務局長に就任した。

また、8月25日にはソンド・コンベンシアにて女性会議、23日から25日にはソウル市内のユースホステルにて青年会議が開催された。

内容は、機関誌「WCRP」8・9月号に掲載。

②WCRP 国際委員会執行委員会

期日：平成26年9月20日

会場：コロンビア大学地球研究所

概要：諸宗教指導者である執行委員15名が参加し、財務報告、事務総長報告、各地域委員会からの活動報告が行われた。また、第9回世界大会以降、2014年から2018年までの戦略計画などについて検討された。また、執行委員は21日にユニオン神学校、22日に聖ペテロ教会で行われたWCRP 国際委員会と世界教会協議会の共催で行われた「諸宗教による気候変動サミット」に参加した。

③バチカン諸宗教対話評議会との交流

期日：平成26年8月1日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

概要：バチカン諸宗教対話評議会のインドゥニル・J・コディトゥワック次官補と

カトリック中央協議会の宮下良平事務局長、真命山諸宗教対話・霊性交流センターの MARIA・デ・ジョルジ副院長が日本委員会事務局を訪問し、畠山友利事務局長が面会。平和に向けて諸宗教間対話が重要であることを確認した。

④韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

概要は、下記「3. セミナー」の通り。

日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東北アジア平和共同体構築のための課題と実践」をテーマとするセミナーが開催された。

⑤KCRP (韓国宗教人平和会議) 事務総長との会合

期日：平成 27 年 1 月 29 日

会場：立正佼成会法輪閣 (東京都杉並区)

概要：キム・クワンジン KCRP 事務総長が来日し、庭野日鏡 WCRP 日本委員会会長、杉谷義純同理事長、國富敬二同事務局長、畠山友利 ACRP 事務総長が面会し、日本と韓国の協力関係の強化などについて協議した。

(2) 東日本大震災復興事業

平成 23 年 3 月 13 日、被災地支援のための「WCRP 東日本大震災緊急勧募」を開始し、7 月には、復興支援のための特別事業部門 (タスクフォース) を立ち上げた。同年 12 月には、宮城県仙台市にあるせんたい・みやぎ NPO センター内に担当デスクを置き (その後、平成 25 年 9 月に仙台市市民活動サポートセンター内にデスクを移動)、スタッフを派遣し、少なくとも 5 年間復興支援を実施することを決定した。復興への取り組みの方針として、①「失われたいのち」への追悼と鎮魂、②「今を生きるいのち」への連帯、③「これからのいのち」への責任の 3 つを方針として掲げ、本年度も継続して、現地の宗教者や NPO 等の支援団体と連携し復興事業を実施した。

また、平成 26 年 3 月～5 月並びに平成 27 年 3 月～5 月の期間、「『東日本大震災をけっして忘れない』ための祈りと行動」をテーマに、「WCRP 震災復興キャンペーン 2014」並びに同キャンペーン 2015 を展開し、復興支援募金、復興合同祈願式、復興支援ボランティア等を実施した。平成 26 年度の主な事業は以下の通り。

①復興に向けた宗教者円卓会議の開催

期日：平成 26 年 5 月 19～20 日

主催：(公財) WCRP 日本委員会

場所：仙台国際センター (宮城県仙台市)

参加者：WCRP 関係者や被災地で支援活動に取り組む宗教者、行政担当者、医師、市民活動家など約 100 名

目的：被災地の地元の方々や支援活動をしている関係者の意見を傾聴し、今後の宗教者の支援活動のあり方に反映する。

概要：岡本全勝氏 (復興庁統括官) ならびに湯浅誠氏 (法政大学教授) の基調発題、4 つのセッション並びにスペシャルセッションが行われた。

セッション1「精神的ケア」では、鈴木岩弓氏（東北大学大学院文学研究科教授）と島藺進氏（上智大学グリーンケア研究所所長）より、臨床宗教師養成講座や日本スピリチュアルケア学会による臨床宗教師に関する基準の策定などについて報告された。

セッション2「地域コミュニティの再構築」では、紅邑晶子氏（みやぎ連携復興センター代表）が、復興まちづくりにおける宗教者の関わりについて報告。また、高橋茂信氏（下増田神社総代長）、竹田昭夫氏（同総代）、高橋学氏（同事務局）が、心の拠りどころ・鎮魂の場としての神社の存在について語った。

スペシャルセッション「心の相談室 Datefm（エフエム仙台）『ラジオ カフェ・デ・モンク』を振り返って」では、板橋恵子氏（ラジオパーソナリティ）、企画・運営・編集を担った金田諦應師（曹洞宗通大寺住職）、三浦正恵師（曹洞宗玄松院副住職）が登壇し、延べ2年105回にわたって放送された同ラジオ番組について報告した。

セッション3「地域における社会的弱者への寄り添い」では、小島聖子氏（釜石市甲子町第6仮設住宅自治会副会長）が、プライバシーや健康、孤立など仮設住宅が抱えている現状を説明。林亮子氏（本吉絆つながりたい会長）、菅原典子氏（同副会長）、小野寺明美氏（同事務局長）は、震災後の障がい者児の環境の変化を報告し、安心して生活できる場所の重要性を強調。続いて江川和弥氏（子どもが自然と遊ぶ楽校ネット事務局長）による福島の子どもの現状や青年への取り組みについての報告、臼澤良一氏（遠野まごころネット副理事長）による伝統芸能のコミュニティの形成や世代間交流における役割についての説明があった。

②復興支援ボランティア

期間：7月30日～8月2日、8月5日～8日、8月10日～12日、8月13日～15日、8月17日～20日、10月11日～13日、11月22日～24日、12月20日～24日（2回）、計9回

概要：自由な外遊びをする機会を提供するために野外キャンプを福島の「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」とともに実施した。参加した子どもの延べ人数：約1,600名、派遣したボランティアの延べ人数：約35名。

③「防災と宗教」シンポジウム

期日：平成27年3月16日

場所：TKP ガーデンシティ仙台

共催：「防災と宗教」シンポジウム実行委員会（以下は構成団体）

WCRP 日本委員会

宗教者災害支援連絡会（宗援連）

宮城県宗教法人連絡協議会（宗法連）

参加者：約400名

概要：第3回国連防災世界会議パブリックフォーラムとして「防災と宗教」シンポジウムを開催。災害時における宗教者・宗教団体の取り組みを検証し、その意

義や役割について考え、今後の災害対応における役割や可能性、課題について議論した。東日本大震災での宗教者による被災者支援として、小田道雄師（新山神社宮司）や宗教・宗派の枠を超えて死者の弔いや被災者の心のケアを行ってきた「心の相談室」の金田諦應師（通大寺住職）、松山宏佑師（昌林寺住職）、三浦正恵師（玄松院副住職）、シャンティ国際ボランティア会岩手事務所の古賀東彦所長がこれまでの取り組みを報告した。

その上で、稲場圭信氏（大阪大学大学院准教授）が「災害における宗教者の可能性」というテーマで発題。全国の自治体への調査の結果、2000 を超える宗教施設が自治体と災害時の協力関係があり、指定避難所になっている状況を紹介した。

パネルディスカッションでは、中村瑞貴師（愚鈍院住職）、西出勇志氏（共同通信社長崎支局長）、2004 年のスマトラ沖地震を経験したディン・シャムスディーン博士（ムハマディヤ会長）、2010 年のハイチ大地震を経験したピエール・アンドレ・ドマス司教（カリタスハイチ会長）がパネリストとして登壇し、それぞれの視点から、災害における宗教者としての役割の重要性を訴えた。

シンポジウムの最後に、平時・災害時における宗教が持つ資源の活用など、宗教・宗教者の役割が盛り込まれた提言が発表された。

④追悼と復興のための祈り

平成 26 年並びに 27 年の 3 月 11 日～21 日の 11 日間、14:46 に 1 分間の黙とうを捧げた。平成 27 年 3 月 16 日には、宮城県名取市において「東日本大震災の追悼と鎮魂ならびに復興合同祈願式」（祈りの集い）を主催した。なお、同祈願式は上記の第 3 回国連防災世界会議の関連行事として実施された。

日時：平成 27 年 3 月 16 日 14:00～15:00

場所：宮城県名取市 東日本大震災慰霊碑建立地

参加者：WCRP 日本委員会役員・地元宗教者など約 100 名

（仏教、神道、教派神道、キリスト教、新宗教、イスラーム等）

概要：宗教宗派別の祈り（11 の宗教宗派の代表者）

黙とう

⑤実践宗教学寄附講座

平成 24 年度から東北大学大学院文学研究科で開始された講座。各宗教の死に対する考え方や人々の悲しみ、苦しみに宗教者が取り組む上でのグリーフケア、緩和ケア、カウンセリングなどの手法を学ぶことを目的としている。これまでに 100 名近くの宗教者が受講し、受講者は地域での活動や医療現場において学びを活かしている。また、同講座の動きは国内のさまざまな大学にも広がりを見せ、大学間における連携のネットワークが生まれてきている。WCRP 日本委員会は、同講座の運営委員として関わっている。

⑥三陸海の盆

NPO 法人遠野まごころネットと連携し、8 月 11 日に岩手県山田町で開催され

た「三陸海の盆」を支援。当日は、朝まで台風の影響があったにも関わらず、約500名が来場。被災地の鎮魂と追悼、早期復興への祈りをこめ、郷土芸能の継承を目的として、三陸地方に伝わる伝統芸能や踊りなどが披露された。

⑦宗教・文化復興支援プロジェクト

被災地の宗教施設の復旧や伝統芸能の復活を目的に地元の行政・団体と合同で行っている。震災で犠牲になった方々と心を通わせるために実施された「こころの灯火プロジェクト 2014」、東松島市の伝統芸能である鹿妻鹿踊りの保存への取り組みを行った。

⑧震災復興に関する公開学習会「3年半を過ぎた福島の現状と課題」

期日：平成26年10月29日

場所：福島市男女共同参画センター ウィズ・もとまち（福島県福島市）

参加者：約60名

概要：丹波史紀氏（福島大学人文社会学群 行政政策学類 准教授）が『現在の福島の課題—多様性の認め合い、共生していく社会へ』をテーマに基調発題し、福島における課題を説明すると共に、長期にわたって避難を余儀なくされている人々の生活再建に対して重要と考えられる視点を示唆した。

セッション1「女性の取り組み」では、渡邊とみ子氏（かーちゃんのカ・プロジェクト協議会会長）が地域伝統の農作物の栽培を通じた雇用機会の創出について、番場さち子氏（ベテランママの会代表）が子どものための居場所づくりについてこれまでの活動を報告した。

セッション2「医師・宗教者の取り組み」では、齋藤紀氏（医療生協わたり病院医師）、久間泰弘師（曹洞宗龍徳寺住職）がそれぞれの立場から福島の人々の心と体の状況についてデータを紹介しながら説明し、今後の取り組みの中で重要になる視点について語った。

⑨フクシマコミュニティづくり支援プロジェクト

山形や埼玉等への県外の広域避難地域を含めて、福島に関係するコミュニティづくりの活動に対する財的支援（1団体20万円以下）を行うことにより、コミュニティの再生・活性化を図る。外部委員を含めた選考委員会にて審査を行い、平成26年度は25団体に支援を行った。

2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

（1）第41回平和のための宗教者研究集会

期日：平成26年6月6日

場所：曹洞宗宗務庁（東京グランドホテル）（東京都港区）

参加者：約 120 名

テーマ：アジアの多様性における一致と調和

プログラム概要：

開会挨拶：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問

趣旨説明：眞田芳憲 WCRP 日本委員会理事・同平和研究所所長

基調発題：秦 辰也 近畿大学総合社会学部教授・

シャンティ国際ボランティア会常務理事

パネルディスカッション

コーディネーター

田中庸仁 WCRP 日本委員会理事・真生会会長

パネリスト

戸松義晴 浄土宗総合研究所主任研究員・浄土宗心光院住職

河田尚子 WCRP 日本委員会女性部会委員・アル・アマーナ代表

レスポンドント（応答）

二階宗人 元NHK ヨーロッパ・中東・アフリカ総局長

基調発題者からのコメント

質疑応答・ディスカッション

コーディネーターまとめ

閉会挨拶：藺田 稔 WCRP 日本委員会理事・秩父神社宮司

（2）平和大学講座

期日：平成 27 年 3 月 6 日

場所：伏見稲荷大社 社務所（京都府京都市）

参加者：約 70 名

テーマ：異質なものととの共存を求めて——他者性を考える——

プログラム概要：

開会挨拶：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問

基調発題：森 伸生 拓殖大学イスラーム研究所教授・所長

パネルディスカッション

コーディネーター

眞田芳憲 WCRP 日本委員会平和研究所所長・中央大学名誉教授

パネリスト

小原克博 同志社大学神学部教授・同一神教学際研究センター長

藺田 稔 WCRP 日本委員会平和研究所所員・秩父神社宮司・

京都大学名誉教授

森 伸生 拓殖大学イスラーム研究所教授・所長

質疑応答

閉会挨拶：中野重哉 WCRP 日本委員会理事・愛知学院理事長

(3) 新春学習会

期日：平成 27 年 1 月 29 日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

参加者：約 200 名

テーマ：アジアにおけるミレニアム開発目標の達成と今後の課題
——日本の宗教者の取り組み——

プログラム概要：

開会挨拶：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問

趣旨説明：田中庸仁 MDGs タスクフォース運営委員・真生会会長

基調発題：吉岡秀人 特定非営利活動法人ジャパンハート代表・小児外科医師
「私の出会った“いのち”の記憶

——途上国医療の最前線で戦う医師からのメッセージ——

パネルディスカッション「アジアにおける開発目標の達成と今後の課題」

コーディネーター

國富敬二 MDGs タスクフォース責任者・立正佼成会理事

パネリスト

吉岡秀人 特定非営利活動法人ジャパンハート代表・小児外科医師

畠山友利 アジア宗教者平和会議（ACRP）事務総長

三宅善信 WCRP 日本委員会理事・金光教泉尾教会総長

眞田芳憲 WCRP 日本委員会平和研究所所長・中央大学名誉教授

質疑応答

閉会挨拶：植松 誠 WCRP 日本委員会理事・日本聖公会首座主教

3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

(1) 韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー

期日：平成 26 年 12 月 8 日～10 日

場所：韓国・慶州市内ホテル

テーマ：東北アジアにおける平和共同体構築のための共通基盤を求めて

参加者：日本・中国・韓国の宗教者、学者、市民団体の代表など約 30 名

プログラム概要：

開会セッション

基調発題

—楊宇 中国天主教主教団副秘書長

—眞田芳憲 WCRP 日本委員会平和研究所所長

—キム・スンゴン ACRP 名誉議長

セッション1：社会的側面からの共通基盤

主な発題者

- －山本俊正 WCRP 日本委員会特別会員・関西学院大学教授
- －辛炫承 尚志大学教授
- －馬俊威 中国現代国際関係研究院日本研究所副所長
- －松井ケティ WCRP 日本委員平和研究所所員・清泉女子大学教授
- －イ・チマン 長神大学教授
- －孟康鉉 成均館教務部長

歓迎レセプション

セッション2：宗教的、文化的側面からの共通基盤

主な発題者

- －パク・クァンス 圓光大学教授
- －中野重哉 WCRP 日本委員会理事・愛知学院理事長
- －庭野統弘 立正佼成会学林学長
- －孫 貞明 スウォン・カトリック大学・ハサン神学院教授
- －楊宇 中国天主教主教団副秘書長

セッション3：環境的側面からの共通基盤

主な発題者

- －印楽 中国佛教協会副事務総長
- －島山友利 WCRP 日本委員会事務局長
- －パク・テシク 聖公会「共に生きる世界」代表
- －ユ・ジョンギル 曹溪宗環境委員

まとめ

内容は、機関誌「WCRP」2月号に掲載。

4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組み

①学習会の開催

期日：平成26年7月11日

場所：東京普門館（東京都杉並区）

参加者：約15名

概要：元 WCRP 日本委員会軍縮安全保障委員の神谷昌道師（立正佼成会国連代表）を講師に、第9回 WCRP 世界大会で報告された「核軍縮に関する実践情報ガイド」についての学びを深め、同ガイドの効果的な活用のあり方を探った。

②学習会の開催

期日：平成26年12月4日

場所：東京普門館（東京都杉並区）

参加者：約30名

概要：平成27年に戦後70年を迎えることから、『戦後70周年における核兵器廃

絶の課題』をテーマとして、元国連アジア太平洋平和軍縮センター所長の石栗勉氏（京都外国語大学教授）を講師に、核不拡散条約（NPT）・同再検討会議並びに核軍縮措置の進捗などについて学んだ。

③広島・長崎平和関連行事への参画

【広島】

平成 26 年 8 月 6 日早朝、広島県宗教連盟主催の祈りに参加し、その後広島市主催による「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に WCRP 日本委員会を代表して松下日肆理事（本門法華宗大本山妙蓮寺貫首）、黒住宗道理事（黒住教副教主）らが出席した。

【長崎】

平成 26 年 8 月 7 日に、長崎県宗教者懇話会が主催する平和交流会に出席し、8 日には、原爆落下中心地公園で開催された第 42 回原爆殉難者慰霊祭に参列した。WCRP 日本委員会からは、樋口美作監事（日本ムスリム協会理事）、大西英玄活動委員（音羽山清水寺執事補）らが参加した。また、8 月 9 日、原爆落下中心地で行われた長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列した。

④オーストリア政府主催「核兵器の人道性に関する国際会議」・核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）主催市民社会フォーラム

平成 26 年 12 月 6 日～9 日にオーストリア・ウィーンで開催された両会議に参画した。会議では、核の使用による人道的・環境的・開発的影響について議論された。8 日には、『核兵器と道徳的羅針盤』をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、WCRP 国際委員会のウィリアム・ベンドレイ事務総長が発題した。

⑤「2020 Vision」キャンペーン

2020 年までに核兵器廃絶を目指すために、平和首長会議が推進している同キャンペーンに対して、資金的な支援を実施した。

⑥核兵器廃絶・軍縮タスクフォースの会合を 5 回開催し、事業についての協議を行った。

(2) 国連ミレニアム開発目標（MDGs）達成のための取り組み

①学習会の開催

概要は、上記「2. 講座（3）新春学習会」の通り。

②「MDGs ストリート・シアター・プロジェクト」

平成 26 年 3 月 31 日～4 月 4 日、ミャンマーのヤンゴン並びにピー県を訪れ、プロジェクト調査を行った。WCRP 国際委員会やミャンマー委員会との協議を経て、日本委員会との合同事業「MDGs ストリート・シアター・プロジェクト」を実施することが決定した。同事業は、子どもの保健・衛生を促進するとともに、諸宗

教の青年の間に信頼関係を醸成することを目的とする。

③「スタンドアップ・テイクアクション・キャンペーン」への協力

NGO のネットワークである「動く→動かす」が推進する同キャンペーンの後援団体として参画した。宗教団体を中心として、MDGs 達成を目的とする同キャンペーンの参画を呼びかけた。

④「My World」への協力

MDGs が 2015 年に達成目標年を迎えることを受け、国連では 2016 年以降の新たな開発目標に市民の声を反映させるために世界中の市民が参加するグローバルな調査「My World」を実施している。学習会や会報等を通して、内外に広く参加を呼びかけた。

⑤MDGs タスクフォースの会合を 4 回開催し、事業についての協議を行った。

(3) 平和教育の取り組み

①平和教育の課題と展望に関する円卓会議

期日：平成 26 年 9 月 27 日

場所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス吉岡記念館（兵庫県西宮市）

参加者：約 30 名

概要：『宗教を基盤とした教育現場からの実践報告』をテーマに、4 つのセッションにおいて発題並びにディスカッションが行われた。

セッション 1 では、キリスト教から奥本京子氏（大阪女学院大学教授）が、紛争解決や紛争転換学の分野で平和紛争学に基盤を置いた実践的なトレーニングについて報告。平和教育・市民教育を通して地域社会を担っている主体者であるという意識を培うことの重要性を訴えた。

セッション 2 では、天理教から金子昭氏（天理大学おやさと研究所教授）が報告。小・中・高校・大学からなる天理大学の信条教育について紹介し、「世直し」のための心を養い、おのずからなる世界の平和をめざす「世直し」の重要性を説明した。

セッション 3 では、神道から新田均氏（皇學館大学現代日本社会学部教授）が、「敬神生活の綱領」を紐解きつつ、祖国を愛する心を教育すると共に社会に資する人材を育成するための教育のあり方について発言した。

セッション 4 では、仏教から渡邊了生氏（相愛大学講師）が発題。平和教育の現状や課題を学び、より良い平和教育のあり方について議論した。

セッション 1～4、まとめのセッションにおいて、忌憚のない活発な意見交換がなされた。

②平和教育タスクフォース会合を 5 回開催し、平和教育に関する調査や事業案についての協議を行った。

5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。平成26年度は、以下に概要がある通り8回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約800部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約400部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

(1) 研究会

①第1回研究会

期日：平成26年5月23日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：眞田芳憲 WCRP 日本委員会平和研究所所長（中央大学名誉教授）

テーマ：「靖国神社国家護持と公式参拝について」

②第2回研究会

期日：平成26年6月25日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：ホアン・マシア WCRP 日本委員会平和研究所所員（イエズス会司祭）

テーマ：「Welcoming the Other の究極的な動機」

③第3回研究会

期日：平成26年7月24日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：藺田稔 WCRP 日本委員会平和研究所所員
（京都大学名誉教授・秩父神社宮司）

テーマ：「神道の立場から見る英霊祭祀——靖国神社を中心に」

④第4回研究会

期日：平成26年10月17日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：佐藤純一 WCRP 日本委員会平和研究所所員
（国際メタテクニカテクノロジー研究センター所長）

テーマ：「福島原発事故への対応の評価と課題——いくつかの重要著書を参考に」

⑤第5回研究会

期日：平成26年11月20日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：竹村牧男 WCRP 日本委員会平和研究所所員（東洋大学学長）

テーマ：「共生思想の歩みと課題——仏教からの一考察」

⑥第6回研究会

期日：平成27年1月15日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：山崎龍明 WCRP 日本委員会平和研究所副所長（武蔵野大学名誉教授）

テーマ：「靖国神社問題と神祇不拝論」

⑦第7回研究会

期日：平成27年2月12日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：黒田壽郎 WCRP 日本委員会平和研究所所員（国際大学名誉教授）

テーマ：「現代文明と宗教」

⑧第8回研究会（合宿）

期日：平成27年3月19日～20日

会場：静岡県熱海市

発表者・テーマ：

－山田經三 WCRP 日本委員会平和研究所所員（イエズス会司祭）

テーマ「〈福音の喜び〉に基づく諸宗教協力と世界平和の建設」

－西原廉太 WCRP 日本委員会平和研究所所員（立教大学副総長・教授）

テーマ「あらゆる核から開放された世界の実現のために——世界の教会が大切にしている視点とは——」

－松井ケティ WCRP 日本委員会平和研究所所員（清泉女子大学教授）

テーマ「共存のための教育」

6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「女性部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和教育・倫理教育に資するため、青少年を対象としたいのちに関する意識調査などを実施している。

(1) いのちに関する学習会

不特定多数の人々を対象として、啓発活動の一環として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会を以下の通り開催した。

期日：平成26年7月7日

場所：NPO 法人 フリースペースたまりば（神奈川県川崎市）

参加者：15名

概要：家庭や学校以外に子どもの居場所があることの重要性に鑑み、NPO 法人 フリースペースたまりばを訪問。同団体は23年前から、学校に行きづらくなった子どもや自分の居場所が見つからない子どものために活動をしてきた。参加者は西野博之理事長からこれまでの取り組みについて学び、施設を見学した。

(2) いのちについてのアンケート報告会

期日：平成26年11月16日

場所：芳澍女学院情報国際専門学校 セレニティホール（東京都杉並区）

参加者：約 100 名

概要：平成 23 年から青年男女を対象に実施した「いのちのアンケート」（いのちに関する意識調査）の結果や分析、提案をまとめた冊子を発刊するにあたり、内容の報告と今後の取り組みに対する意見を集めることを目的に報告会が開催された。松井ケティ委員（清泉女子大学教授）が概要を説明した後、河田尚子事務局長（アル・アマーナ代表）がアンケート結果をもとに提案を発表。その後、山本俊正平和教育タスクフォース運営委員（関西学院大学教授）、湯原美陽子氏（円ブリオ基金センター理事長）、三上健氏（日本ユニセフ協会広報・アドボカシー推進室シニアマネージャー）をパネリストにパネルディスカッションが行われた。

（3）宗教別学習会

各宗教についての相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成 27 年 3 月 25 日～26 日

会場：一燈園、浄土宗総本山知恩院（京都府京都市）

参加者：12 名

プログラム概要：

一燈園見学、西田多弋止当番との懇談

燈影学園一燈園中学校・高等学校にて相大二郎校長の講演

知恩院の法然上人御堂並びに諸堂を参拝

（4）アドボカシー委員会

10 月 20 日、宮城県気仙沼市で障がい児・者をもつ母親が設立した「本吉絆つながりたい」の小野寺明美事務局長が「東日本大震災における自閉症児等の被災状況と支援の課題」をテーマに講演し、東日本大震災時の状況について学んだ。これを契機に、災害時に障がいをもつ方々や高齢者など特別なケアを必要とする方々への対応についての認識や理解を広め、自治体や宗教施設等、避難所になる可能性のあるところに事前の準備を促すことを目的としてアドボカシー委員会を立ち上げた。

7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るため、サマーキャンプや日本と韓国の青年の交流などのプログラムを実施している。

（1）サマーキャンプ 2014

修行体験や講義を通して他の宗教に対する学びを深めるとともに、参加者の相互理解を深め、諸宗教と平和について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成 26 年 7 月 19 日～21 日

会場：椿大神社（三重県鈴鹿市）

参加者：37名（8教団）

テーマ：寛容（うけいれる）～自然や人を～

プログラム概要

開会式

山本行恭宮司の講演：テーマ「寛容」

みそぎ修法の体験

正式参拝

高山入道ヶ嶽の登拝

椿大神社境内の見学

各教団紹介

班ごとのディスカッション「他者（自然や人）と共に幸せに生きるための、
あなたの寛容の実践とは？」

閉会式

（2）現地学習会

期日：平成26年9月11日

会場：普門寺（宮城県山元町）

参加者：9名

概要：震災から3年半経過した被災地の現状を学ぶために宮城県山元町にある曹洞宗普門寺を訪れた。普門寺には、境内の墓地から流出した遺骨と土で築かれた骨塚があり、その場で鎮魂と慰霊の祈りを捧げた。その後、坂野文俊住職から震災直後の様子やおてら災害ボランティアセンター設立までの経緯などを伺った。

（3）WCRP 国際青年委員会（IYC）への参加

平成26年9月30日～10月2日にチュニジアのチュニスで開催されたWCRP 国際青年委員会に参加。世界の各地域から11名の役員と国際委員会の杉野恭一副事務総長が参加した。30日には、同国の迎賓館において宗教指導者や青年など約200名が集う会合が開かれ、元WCRP 国際共同会長のメレツィア・ラビディ・マイーザ師（チュニジア制憲議会副議長）が「他者と共に生きる歓び——人間の尊厳を守り、地球市民らしく、幸せを分かち合うための行動」をテーマに講演を行った。

8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

（1）マスコミ関係者との情報交換

①プレスリリース

平成26年度は、40のプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付した。

②記者懇談会

平成27年3月23日、日本記者クラブ（東京都千代田区）において、記者懇談会

を開催した。約 20 名の記者が参加し、ムスリムとの対話について意見交換を行った。

(2) ホームページ

ホームページを通して、事業の成果報告や告知を行った。随時データ更新するとともに、より分かりやすくなるようデザインを変更した。また、ホームページを通じて、広く一般に学習会等への参加をよびかけ、その申し込みの受付を行い、市民からの問い合わせに対応した。

(3) 出版

①機関誌「WCRP」

毎月 3,000 部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連や NGO 関係者並びにマスコミ関係者等、約 2,000 部を無料配布した。また、ホームページ等を通じて広報し、申込者に対し、年間購読料 1,000 円で送付した。

②平成 25 年度活動報告

平成 26 年 8 月に平成 25 年度活動報告を 3,000 部発行し、WCRP 日本委員会関係者・賛助会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に 2,600 部を無料配布した。

また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

③第 8 回 ACRP 大会報告書

平成 26 年 8 月に開催された第 8 回 ACRP 大会の報告書を平成 26 年 9 月に発行。学習会等の際に無料配布するとともに、会報等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

④英文パンフレット

WCRP 日本委員会の概要をまとめたパンフレットを作成し、希望者ならびに学習会等の参加者に無料配布した。

II. 法人運営部門

1. 法務に関する業務

- (1) 内閣府への報告等及び登記事務他
- (2) 法人に関する業務

2. 会議に関する業務

(1) 評議員会

①第 7 回評議員会

期日：平成 26 年 6 月 27 日

会場：平安神宮会館迎賓殿（京都府京都市）

②第 8 回評議員会（文書持ち回り）

期日：平成 27 年 2 月 13 日

(2) 理事会

①第10回理事会

期日：平成26年6月6日

会場：曹洞宗宗務庁（東京グランドホテル）（東京都港区）

②第11回理事会

期日：平成26年9月26日

会場：音羽山清水寺大講堂（京都府京都市）

③第12回理事会

期日：平成27年1月29日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

④第13回理事会

期日：平成27年3月6日

会場：伏見稲荷大社儀式殿（京都府京都市）

(3) 評議員選定委員会

期日：平成27年2月27日

会場：東京普門館（東京都杉並区）

(4) その他諸会議の運営及び記録他

①総合企画委員会

8回開催

3. 監査に関する業務

平成26年5月22日に実施

4. 財務に関する業務

(1) 資産運用及び管理に関する業務

(2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

5. 文書管理に関する業務

各種文書の作成、提出、管理及び保管他

6. 人事及び福利厚生に関する業務

勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他

7. 庶務に関する業務

①什器備品、印刷物、公印等の管理他

②その他どの部門にも属さない事項の処理他

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」

第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上

平成 27 年 6 月 6 日

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会